みずほオートリース通信

2026年8月号

運転中に大地震が発生したときの対応と備え

日本は地震大国です。運転中に突然強い揺れに襲われたらどのように対処すれば良いのか、また日頃からどのような備えをしておけば良いのかを整理してみました。

運転中に揺れを感じたら

＜できるだけ安全な方法で道路の左側に停止する＞

急ハンドル、急ブレーキを避け、ハンドルをしっかり握り徐々に減速します。トンネルの中や橋の上、高架下では停止せず、可能な限り建物や塀から離れた広い場所が望ましいです。

＜停止後は情報を入手する＞

停止後はカーラジオ等で地震情報や交通情報を聞き、周囲の状況に応じて行動します。余震の可能性がある場合には、運転を続けるのは避けましょう。

＜車を置いて避難する場合＞

車を置いて避難する時は、できるだけ避難する人や災害応急対策の妨げにならない場所に駐車し、エンジンを止め、窓は閉め、ドアはロックせずに、エンジンキーは付けたままか車内の分かりやすい場所においておけば、緊急・救援車両の通行の妨げになった場合、別の人が車を移動させることが出来ます。

画像：警察庁Webサイト https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/seibi2/saigaiji/daizisinnunntennsya.html

大地震の発生に備える

＜燃料の確保・防災グッズを車内にも＞

日頃から燃料は半分以上をキープすることも災害対策のひとつです。EV車であれば非常用電源になりますので、こまめに充電し満タンを維持できると安心です。災害が原因の停電時も給油できるように、自家発電設備を備えたガソリンスタンドが全国に約14,000ヶ所あり、場所は資源エネルギー庁のWebサイトで確認できます。

また、自宅と同じように防災バッグを車内に常備しておけば、いざという時に役に立つでしょう。

出典、画像：下記Webサイト参照し、一部引用のうえ当社で作成
東京海上日動火災保険株式会社 Webサイト 安全運転ほっとNEWS 運転中に大地震が発生したときの対応 https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/guide/drive/202601.html#anc-01

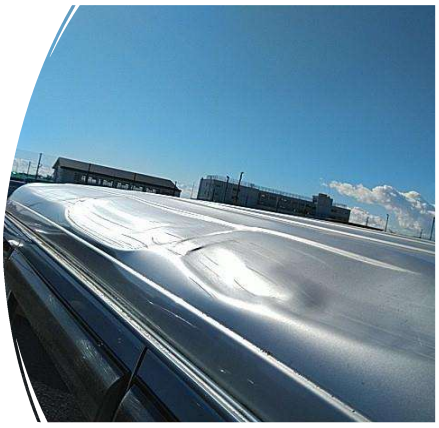
リース車両ご返却時の原状回復について

平素より弊社をご愛顧いただきありがとうございます。リース満了時にご返却いただく車両について、原状回復の対象となる主な事例を写真とともにご紹介いたします。

キズ、凹み、色褪せの代表例（修理対象となる状態）

40cm程度の線キズ

サッカーボール程度の
大きさの凹み



サッカーボール程度の
傷、凹み、大きな色褪
せ、塗装剥がれ

原状回復が必要となるその他の事例

フロントバンパー等に亀裂が確認された場合や、フロントガラス・リアガラスに割れや亀裂が発見された場合は、修理または交換が必要となる場合があります。また、右の写真のように、内装の内張が取り外された状態で返却された場合は、原状回復に必要な部品代および工賃をご負担いただく場合がございます。さらに、車内の大量のゴミの放置や著しい汚損が確認された場合には、清掃費用をご負担いただく場合がございます。

今回は、原状回復の対象となる主な事例についてご紹介いたしました。車種、年式、走行距離、損害状況等によって異なるため、全ての車両に当てはまるわけではありませんが、ご返却時の車両状態によっては原状回復の対象となる場合があります。中古車市場は価格や需要が大きく変動していることから、ご返却いただいた車両については、その状態を適正に評価し、状態に応じた最適な流通先を選定しております。今後も公平な基準に基づき対応してまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

※原状回復とは・・・通常使用による経年劣化を除く、車両に生じたキズ・凹み・破損・汚損などを、修理・部品交換・清掃等により適正な状態へ戻すことをいいます。今回、当社でリース満了時に引揚げた後の車両状態を例として挙げましたが、原則は弊社へご返却いただく前に、お客様にて修理を行いご返却を頂くことになっております。また、車内も清掃を行っていただければ追加で費用発生することはございません。

Copyright (c) Mizuho Auto Lease Co., Ltd. All Rights Reserved.